

MUCHO-FR の機能追加

このたびはフレームリレー対応アクセスルータ MUCHO-FR をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。

今回お買い求めいただいた MUCHO-FR では、お客様から寄せられた数多くの要望の中から幾つかを選択し、提供しています。

本資料では、これらの機能に関して説明しています（取扱説明書では説明されていません）。

MUCHO-FR をご使用の前に本資料を良くお読みのうえ、正しくお使いください。

>>> 目次 <<<

1. ログ情報に日付けを記録できます	2
1.1. date コマンド（現在時刻の設定と表示）	2
2. syslog を通知します	3
2.1. syslogtable コマンド（syslog サーバの登録）	3
2.2. syslogcontrol コマンド（syslog 通知の ON/OFF）	4
3. フレームリレーエンカプセル方式の指定ができます	5
4. 設定内容、装置情報やログの取得	6

1. ログ情報に日付けを記録できます

MUCHO がロギングしている各ログの内容にタイムスタンプが付きます。

この値は MUCHO が立ち上がった時点では 1998 年 1 月 1 日となっていますが、現在時刻を指定することによりログが発生した時点での時刻を記録する事ができます。

1.1.date コマンド (現在時刻の設定と表示)

date [YYMMDD.hhmmss | hhmmss | YYMMDD.]

< 内容 >

現在時刻として、年月日時分秒を設定します。年月日だけの設定、時分秒だけの設定ができますが、年月日だけの設定時はデータが"."で止まっていなければいけません。年月日時分秒を一度に設定するときは年月日と時分秒を"."で区切られていなければいけません。

パラメータの指定が無く、コマンド名だけの入力の場合は現在時刻を表示します。

年の指定は 2 桁となりますがその範囲は 1998 年から 2097 年までとなります。

< パラメータ >

YY	年を表す、西暦の下 2 桁。範囲は 1998 ~ 2097
MM	月を表す 2 桁。1 桁月は先頭を 0 で埋める。範囲は 01 ~ 12。
DD	日を表す 2 桁。1 桁日は先頭を 0 で埋める。範囲は 01 ~ 31。
hh	時間を表す 2 桁。1 桁時は先頭を 0 で埋める。範囲は 00 ~ 23。
mm	分を表す 2 桁。1 桁分は先頭を 0 で埋める。範囲は 00 ~ 59。
ss	秒を表す 2 桁。1 桁秒は先頭を 0 で埋める。範囲は 00 ~ 59。

注意

- 「現在時刻」は通信状態にもよりますが 1 日あたり数分の誤差が発生します。時刻の精度を保つためにも適時時刻を合わせるようにしてください。
- MUCHO の電源を入れなおした時、現在時刻は 1998 年 1 月 1 日 0 時 0 分 0 秒に戻ってしまいます。電源を入れなおした時には正しい現在時刻を設定してください。

2. syslog を通知します

指定の syslog サーバに SYSLOG パケットを通知します。

MUCHO がロギングしている各ログをそれぞれのレベルで syslog サーバに通知します。各ログのレベルは次のとおりです。

ログの種類	syslog のレベル
トラップログ (tlog)	エラー (err)
エラーログ (elog)	ワーニング (warning)
ラインログ (llog)	インフォメーション (info)

2.1. syslogtable コマンド (syslog サーバの登録)

```
syslogtable [[addr=<ipaddress>
             [err={tlog|off}]      [warning={elog|off}]
             [info={llog|off}]     [facility=<no>]]
```

<内容>

syslog サーバの指定と syslog として通知するログの種類を指定します。

<パラメータ>

addr=<ipaddress>	syslog サーバの IP アドレス 工場出荷時設定は 0.0.0.0
err={tlog off}	トラップログの通知スイッチ "tlog": トラップログの通知を指定します。 "off" : トラップログの通知を停止します。(工場出荷時設定)
warning={elog off}	エラーログの通知スイッチ "elog": エラーログの通知を指定します。 "off" : エラーログの通知を停止します。(工場出荷時設定)
info={llog off}	ラインログ、アクセスログの通知スイッチ "llog": ラインログの通知を指定します。 "off" : アクセスログ、ラインログの通知を停止します。(工場出荷時設定)
facility=<no>	ファシリティ 0~23、工場出荷時は 1 ("user")

設定例は次ページを参照してください。

2.2.syslogcontrol コマンド (syslog 通知の ON/OFF)

syslogcontrol [on | off]

<内容>

syslog の通知を制御します。

<パラメータ>

on	syslog の通知を行います。
off	syslog の通知は行いません。(工場出荷時設定)

例：syslog サーバ (192.168.100.1) にすべてのログを user レベルで通知する。

```
conf#  
conf#syslogtable addr=192.168.100.1 err=tlog warning=elog info=llog  
facility=1  
conf#syslogcontrol on  
conf#
```

注：**斜体**は入力する設定値です。

3. フレームリレーエンカプセル方式の指定ができます

フレームリレーエンカプセル方式に RFC 以外の方式（通称 CISCO 方式）を `d l c i` コマンドで指定できます。これにより CISCO 方式で運用中のルータとフレームリレーでの接続が可能になります。

< `d l c i` コマンドでの新しいパラメータ >

`encap = { r f c | o t h e r }`

rfc	フレームリレーエンカプセル方式に RFC を採用する。（工場出荷時設定）
other	フレームリレーエンカプセル方式に RFC 以外を採用する。

例：DLCI16 のエンカプセル方式は RFC 以外とします。

```
conf#  
conf#d l c i 16 encap=other  
conf#
```

注：**斜体**は入力する設定値です。

4. 設定内容、装置情報やログの取得

装置の状態を調べる時に設定内容や装置の状態、各ログの内容を利用しますが、これら情報全てを display コマンド 1 回の入力で取得することができます。

< display コマンドでの新しいパラメータ >

all

all	設定内容だけでなく、装置情報やログの内容も表示する。
-----	----------------------------

利用例

```
#  
#display all  
    :  
    設定内容の他に、装置やログの内容を表示する。  
    :  
#
```

注：**斜体**は入力する設定値です。

© 1998.7 古河電気工業株式会社
Printed in Japan